

独立就農の魅力発信

JAわかやま職員 和歌山大で講義

【わかやま】JAわかやまの職員が13日、和歌山大学のわかやま未来学副専攻「地域協働セミナー」の第10回講座で登壇した。独立就農した若手農家を紹介。農業に対するイメージギャップ解消を図り、地方創生に携わる人材の育成を目指す。今期は学生214人が受講している。

同副専攻は「教育科目」と「実践型インターンシップ」からなる学生の起業精神を養う同大学独自の教育プログラム。セミナーはその導入科目で全15回。各回担当教員の推薦を受けた行政、企業、団体などの代表者が講師を務める。

講師は、同JA中央営農センターの垣淵瑠美さんと四ヶ郷中之島支店の井口圭司副支店長。同JA管内で活躍する4人の若手農家を紹介した。

39歳の専業農家は、イチジク、タマネギが



講義をする垣淵さん

見つけ、成功させればビジネスチャンスが生まれてくる」と強調した。同大学食農総合研究教育センターの岸上光克教授は「農業をビジネスと捉え、地方創生につながることを期待している」と話す。

主力。栽培しやすく一斉収穫できる自らのライフプランに適合したものを選択した。35歳会社員の兼業農家は農業生産法人を設立し、希少性の高い品目で販路を広げている。飲食店を経営する52歳兼業農家は「自家栽培」をキャッチフレーズに店舗の付加価値を高め、38歳のイチゴ農家はクレープ屋を手がけ、6次産業化に成功した。垣淵さんは「管内は多彩な農産物があり品目の間口は広い。JAを含め、支援体制も充実している」と話し、井口副支店長は「自分なりの経営スタイルを